

附属文学大賞の選考委員になって作品を選ぼう
～比較の観点を決め、作品を主体的に読み深める活動を通して～

山梨大学教育学部附属中学校

授業者 那須 正和

【キーワード】 「比較読み」 「比較の観点」 「語りの構造」 「必要な自己調整」 「学びの計画書」 「ロイロノート」 「Googleworkspace」

【授業の概要】

「少年の日の思い出」は前半の「私」と客のやりとりから始まり、後半部分の僕のことを描かれるという構造になっている。そして後半も「私」が後になって、客から聞いた内容を語り直している構造と読むことができる。その中で「私」は僕（客）が言っていることをどのようにとらえ、どのように表現しているのか。そういった構造や作品中の表現を立体的に捉えていくことにより、なぜ「私」は客から聞いたことを語り直したのか。なぜ最後の場面で「私」と客の場面に戻らないのかなど多くのことを考えることができる作品である。

また、「一房の葡萄」は有島武郎の短編小説である。主人公の少年がものを盗み、それをめぐる仲間とのやり取りなどは「少年の日の思い出」と類似している点がある。しかし、語りの構造や登場人物の設定の仕方や作品の終わり方やテーマ設定など違う部分も多い。

内容は似ているが描かれた目的や世界が違う二つの作品を読み比べ、仲間との対話や様々な調整を加える中で観点を明確にして比較させ自分が文学賞の選考委員だったらどちらの作品に一票を投じるか。そしてその根拠はどこにあるのかを考えさせたい。

1. 単元の目標

- (1) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通し語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- (4) 言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。 「学びに向かう力、人間性等」

【言語活動例 中1】

小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。 Cーイ

2. 教材名 『少年の日の思い出』 ヘルマン・ヘッセ (光村図書出版「国語1」)
『一房の葡萄』 有島武郎 (講談社文庫)

3. 生徒の実態

生徒は、国語の学習に対して意欲的であり、授業での交流場面や考えの発表場面でも積極的に

発言を行う生徒が多い。国語科で行っている新聞記事を活用したF U Z O K Uワークシート、新聞のコラムの視写、帯単元的に行っている漢字学習などにも真面目に取り組んでいる。

本年度の5月に行われた NRT 検査では国語の全領域で全国平均は上回っているものの、読むことの領域を見てみると、「文章から読み取ったことを考察する」ことに課題が見られた。(表1) 小説の内容を理解することはできるが、表面的な読みにとどまり、本文中の表現や描写を手掛かりに、小説の本質に迫るような読みの深まりにはまだ到達できない。1年生の「大人になれなかった弟たちに……」では朗読発表会をするために、「大人になった私が語った理由」について考えた。そういった学習を積み重ねることで、本文中の表現や構成・展開などに疑問を持ち、なぜそのような描かれ方がされているのかを考え、これまでの経験や仲間との交流を通して作品の世界を自らの手で広げていく読みができるようにしたい。

NRT 標準学力検査検査の結果から(表1) 2023, 5月実施

	内容	正答率 学年	正答率 全国
1	話すこと・聞くこと	78, 3	62, 0
2	書くこと	78, 2	61, 4
3	読むこと	78, 4	60, 6

	読むこと領域 集計	正答率 学年	正答率 全国
1	主題や構成を読み取る	68, 2	46, 3
2	要点をとらえ内容を解釈する	77, 5	56, 7
3	考えや感想をまとめ伝え合う	68, 6	49, 3

	読むこと領域 小問集計	正答率 学年	正答率 全国
1	物語文・語句の意味をとらえる	70	49
2	物語文・表現を読み取る	72	42
3	物語文・文章から考察する	78	57

【日常の取り組み】

○学びのプロセスモデル国語科編を意識させる

生徒に到達すべき目標を示し、そこに向かうための学習活動を意識させることによって、授業に対しての構えをつくらせることができる。

これまでの授業の中で「気づく→目標を設定する→学習する→自己調整する→深める→振り返る」という小さな学習サイクルを意識させることを行ってきた。これをもとに、生徒自身が目標達成のための学習計画である「学びの計画書」を作成する。また、「振り返り」では学習を通して自分の考えの変容や身に付いた学習方略を言語化して振り返ることができるようにしている。

○必要な時に必要な方法で自己調整を行わせる

学びのプロセスモデルのサイクルに沿って、目標を設定し、生徒自身がどのような方略で目標に向かっていくのかを選び、学習を進めていく。その過程で今の自身の学習に必要なかがわからない時や躓いてしまった時には、立ち止まって考えることが必要になる。その時には、教師や仲間との対話、本やインターネットで調べたことなど必要な時に必要な方法で自己調整ができるようにしていく。生徒自身が課題に向かう力を身に付けていくために試行錯誤することが重要である。

○学びの計画書と Wordbank の取り組み

学びの計画書はこの単元で身に付けるべき力を生徒自身が認識し、その目標の達成のためにはどのような学習過程を経てどのような方法で学習を進めていけばいいのかを自身でデザインするための計画書である。これを作成することによって、目標の達成のためには自身の計画でどのようなことが必要なかが明確になる。さらに仲間の計画表や考えを ICT を使い絶えず交流させることにより、自身が必要な時に必要な自己調整が加えられ、より主体的な学習が可能になると考える。

Wordbank とは語彙の獲得、拡充のために附属中国語科で行っている取り組みである。新たに出会った言葉は iPad の Googleworkspace のスプレッドシートに記録しておくことにより、語彙の拡充を図り、実生活で使うことができる言葉を得ることができるようにしていく。並行して附属ワークシートという新聞記事などを題材としたワークシートを国語科で用意し、その中に出てくる知らない言葉などを調べ、Wordbank に蓄積していくことも行っている。

4. 指導の内容と言語活動、教材の関わり

(1) 言語活動設定の意図

本単元では、本校の教育目標でもある「創造性」を発揮することによって小説の新たな価値を見出すことを目的に文学賞を設定した。今回はその最終候補作品として二つの作品を挙げた。作品を選ぶことが目的ではなく、二つの作品を観点に沿って読み、作品の持つ世界を比較検討することでそれぞれの世界を深く読み解き、作品についての考えをもつことを目的に言語活動を行う。

中学1学年の定番教材である「少年の日の思い出」はこれまでも多くの実践が行われ、一義的な読みの世界だけではない「構造」や「語り手」、「人物の設定」や「作品の主題」など多くの観点に沿って読み深めることのできる教材である。特に「語り手」については、前述したように客（後半の僕）の告白を聞いた「私」がその告白を相対化して語り直すことによって文中での客（後半の僕）の心の中に迫ろうとしていると解釈できる。一方、「一房の葡萄」も大人になった僕が語っているという点では一人称の回想と読むことができる。盗みが共通の出来事になっていることから内容の一部は似ている部分はあるが深く読み進めていくとその書かれた動機など全く違った作品だとわかる。そこで比較の観点を生徒たち自身に考えさせ、全体で共有していく中で、その観点に沿って二つの作品を比較させる。共通点や相違点など比較したからこそ見えてくることを大切にし、最後は文学賞の選考委員として、自身が附属文学賞にふさわしいと判断した根拠を述べて一票を投じる。

生徒が、二つの作品を比べることによって、生徒自身がその作品の新たな読みに気付くことができ、その世界を読み解くことができるようになる。様々な手段で作品にアプローチさせることで、文章から読み取ったことを考察する力につながると考える。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

交流の必要性を生徒が感じる学習課題、そして活動を意図的に仕組むことで、生徒の主体性や他者との交流の有用性が高まる活動として、以下の活動を設定した。

【 自身の学びのプロセスを言語化する学習活動 】

まずは学習課題を主体的に設定のために初読の感想から疑問や批判的な視点を大切にしていく。また、今回の目標を達成するために自身の学びをデザインし、目標に向けての学習方略を立てる必要がある。今まで自身の学習経験の中で培ってきた様々な方略（手だて）からどの方略を選び、どのように目標達成までのプロセスをたどるのかを考えさせる。さらに、学習の途中でその過程を見直すとともに教師や仲間からアドバイスを受けて自身

の学習過程を調整，再考していくことで主体的な読みを実現させる。また，ICT を活用し，常に仲間の考えや学習活動を見ることができるようにする。自己調整が難しい生徒には，これまでの学びを振り返らせることや教師からのアドバイスをもとに，自身の力で最初に読んだ時には気付くことができなかった物語の面白さや奥深さに気付かせ，主体的な読み手として課題に向かう姿を大切にさせたい。

（３）意識させたい「言語意識」

【 ５つの言語意識 】

- ・相手意識 附属中の生徒に対して
- ・目的意識 文学大賞の選考委員になって作品を選ぶために
- ・場面意識 文学作品を読み深める場面で
- ・方法意識 観点を明確にして作品を比較することを通して
- ・評価意識 根拠を明確にして作品を選ぶことができたか。

（４）全体研究との関わり

①「生徒が言葉の価値を創造する」学習課題の設定

- ・本校の国語科として捉える「言葉の価値を創造する」とは，言葉により行われる活動の中で「言葉による見方・考え方を働かせる」ことで，既存の考えから脱して新たな言葉の意義や捉え方ができることを認識し，生徒自らが言葉のもつ新たな価値や面白さを追究し，言葉の世界を広げることである。そのために本授業では，生徒がこれまでの課題や初読の感想から学習課題を設定し，生徒が主体的に言葉を捉えたり，捉えなおしたりすることが大切にしていく。そこで生徒は強い目的意識を持って言葉の価値と向き合い，様々な対話を通して作品中の言葉の使われ方や，広がりを考えさせたい。

②資質・能力を見取る評価の工夫

- ・振り返りシートを活用した形成的評価
振り返りの場面では，自身が作成した学びの計画書を再考させ，この時間の中で到達できたことや，次時に向けて計画の再考は必要か，更なる方略の追加などはないかなどを考えさせる。指導者は出されたものに線を引いたり，コメントを残したりしながらフィードバックすることで，次時や計画表の全体像に目を向けることで生徒が課題を意識できるようにしたい。それにより，生徒が見通しをもったり，授業のつながりを意識できたりすることが可能になると考える。
- ・身に付けさせたい資質・能力を可視化するための工夫
自分自身の思考の過程を可視化するためにロイロノート，Googleworkspace のスプレッドシート，ジャムボードなどを使い，同じ観点で課題に向かっている仲間の思考の過程も常に参考にしながら自身の学習に向かえるようにしたい。また思考の過程がわかるようなワークシートを用い，仲間との交流や教師とのやり取りなどの調整の過程も見取れるようにしていく。

③主体的に学習に取り組む態度の評価

- ・「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させた学びを実現させ，「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「学習方略」を言語化し，生徒と共有することを目指したい。「目標設定」「振り返り」「全体の振り返り」については，自己評価や相互評価をバランス良く取り入れながら，総括的評価を行うことができるように，見取りを行う。以下に「主体的

な学び」のプロセスモデル国語科編を示し、プロセスモデルに則って学習を進めていく。

学びのプロセスモデル国語科編							
	見通し		学習活動				振り返り
	①目標設定	②方略計画	③遂行	④形成的評価	⑤方略調整	⑥遂行	⑦総括的評価
エンゲージメント	・文学作品を読み深めるための観点を挙げて「一房の葡萄」・「少年の日の思い出」を読む。 (認知・行動) ・附属文学大賞にふさわしい作品とはどのような作品かについて考える。(感情)	・目標を達成するために自分はどういう観点で作品を読むかを考える。(認知) ・どのような手立てを用いて目標に向かって学習を進めるのか計画書を作成する。(認知・行動)	・二つの作品を読み、どのような作品なのかを理解する。 (認知) ・二つの作品を比較して読むことで、共通点や相違点に着目して作品を深く読む。 (行動)	・学びの計画書を再考し、自身の課題解決のために必要な方略について考え、作品を読み深めるために次時以降に何が必要かについて考える。 (認知)	・自身の「学びの計画書」を見直し、必要な情報や方略は何かを考える。 (認知・行動) ・作品を選ぶ根拠をもつために今必要なことは何かを考え、必要な調整を加える。 (認知・行動)	・作品を選ぶための根拠となる自身の考えが妥当なものであるのかを確認し、最終的に選ぶ作品について選考理由を明確にする。 (認知)	・選考委員として投じた一票とその根拠を読み合い、自身の作品の読みがどのように変容したのかを考える。 (認知・行動) ・今回学んだことを次の文学的文章の読みにどのように生かすのかを考える。 (感情)

5. 指導計画と評価計画（C領域「読むこと」43時間中の7時間）

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)	①「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	①言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

6. 授業の計画(単元構想表)

		学習活動	評価
事前		○新出漢字、新出音訓、語句の意味については事前学習。	

第一次	1 時 【構造と内容の把握】	○文学作品を読み深める上での観点を挙げさせる。 ①場面・時間 ②登場人物 ③語り手 ④構成・展開 ⑤キーワード（題名・よく出てくる言葉や特徴的な表現など） ○「一房の葡萄」と「少年の日の思い出」を読み、附属文学大賞を選ぶという活動をふまえて、自身の課題を設定する。 ・二つの作品を読んで初読の感想を持つ ・どのような作品が附属文学大賞にふさわしい作品かについて考える ・作品を比較する観点を、自分自身で決めて作品を読むことを確認する。	[知識・技能①] 初読時に作品上での単語の意味を調べ、語彙を豊かにしている。
第二次	2 時 【構造と内容の把握】	○学びの計画書を作成する。 ・これまで小学校や中一の現在までに学んできた学習方略から必要だと思うものを選び、計画書を作成する。 【計画書に生徒が書く学習方略例】 ①もう一度読んでキーワードを洗い出す ②友達に自分の考えを聞いてもらいアドバイスをもらう ③図書館の本で調べてみる ④司書の先生や学校の先生と話をする ⑤生成 AI にキーワードを打ってアドバイスをもらう ⑥インターネットで調べる など	[主体的に学習に取り組む態度①] 自身の学習方略を見通して計画を立てる。
	3, 4 時 【精査・解釈】	○「一房の葡萄」と「少年の日の思い出」を比べ読みし、それぞれの作品を深く読む。 ・計画書作成段階から Googleworkspace で共有し、情報を得ながら自分の計画書が書けるようにする。 ・比較の観点を明確にしてそれぞれの作品を深く読む。 ・3 時間目の終わりに中間レポートをロイロノートで提出する。 ・4 時間目の終わりには目的を持って次時に向かうために交流したい人やチャレンジしたいことをロイロノートで提出させる。 【この単位における作品を比較する観点】 ①場面・時間 ②登場人物の役割 ③語り手 ④明と暗の関係 ⑤題名	[思考・判断・表現①] それぞれの作品の特徴について表現の効果や構成や展開から考えている。

第三 次	5時 【考えの 形成】	⑥構造の違い ⑦終わり方の違い ⑧キーワード など ○第一次選考を行う ・自身の計画通りに目的を持って交流や調べ学習を行うことができるようにする。 ・ロイロノートの共有を行い、他の人やグループの交流の様子を全員に共有できるようにしておく。 ・他のグループに聞きに行ったり、必要な情報はグループをまたいで収集したりする。 ○4人班で発表し合い、必要な調整を行う。 ・自身が選んだ作品と選考理由を交流し、情報を共有する。 ・自分の学習計画や進捗状況を吟味し、今どのようなことが必要かを考え「学びの計画書」に加除修正を行う。 ・仲間や教師など様々な対話によって得た知識はもう一度作品を読み深める際の参考にする。	[主体的に学習に取り組む態度①] 仲間から得た情報や様々な交流から自身の学習に調整を加えようとしている。
	6時 【考えの 形成】	○最終選考に向けて自分の考えをまとめる。 ・同じ作品に一票を入れようとしている人で集まり、根拠の示し方が適当であるかアドバイスをを行う。 ・iPad で選評を書く。	[思考・判断・表現②] これまでの考察をもとに自分の考えを確かなものにしている。
	7時	○最終選考会を行う。 ・クラスの仲間の選評を読み、自身の最終投票作品を選ぶ。 ・Google forms で最終投票アンケートを取り全体で共有する。 ・単元のまとめを行う。	

7 本時の展開

(1) 日時 令和5年月11月23日(木) 9:30～10:20

(2) 場所 山梨大学教育学部附属中学校 図書室

(3) 目標 比較した観点を明確にして作品の魅力について考えさせる。

(全7時間の5時間目)

	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	1 第一次選考を行う。(5)	・本時の目標を確認する。	
	◎比較した観点をもとに根拠を挙げて作品の魅力について考えよう。		

深める	2 作品の選考に向けて自身が考えた根拠がより明確になるように、比較の観点に沿って交流し、自身が選んだ観点についての考察を深める。(25) ・他のグループに聞きに行ったり、必要な情報はグループをまたいで収集したりする。 3 4人班でこれまでの活動の報告を行う。(15) ・交流を受けて作品を選んだ根拠が明確であるかについて交流し、次回に向けての見通しを持たせる。 ・必要に応じて自身の「学びの計画書」を再考する。	・前時の終わりに出している本時の目標を明確にさせ、各自が目的を持って自由に交流できるようにする。 ・ロイロノートの共有を行い、他の人やグループの交流の様子を全員に共有できるようにする ・教師も必要なアドバイスができるように各場所を巡回指導する。 ・仲間の発表を聞いて自分の観点等と関わる部分がないかを考えさせる。 ・次時の選評を書くことに向けて必要な調整が加えられるように、修正した学びの計画書は赤で修正させる。 ・今まで進めてきたことにプラスしたり焦点化したりするなど今までの学びを振り返る。	[主体的に学習に取り組む態度①] 仲間から得た情報や様々な交流から自身の学習に調整を加えている。
考える	4 最終選考に向けて書評の準備をする。(5)	・本時を振り返り、次時までに何が必要か考える。	